



# メインフレームからの脱却を果たし 変化する事業環境に合わせ再構築

フットワークよく機能追加や変更が可能に

## 背景

基幹システムを運用してきたメインフレームの保守期限が迫っていることを契機に、基幹システムそのものの再構築を決めた。脱メインフレームと現在の事業環境に即した機能強化を目指した。



商船三井ロジスティクス株式会社  
専務取締役 管理部門担当  
金森 義明氏



商船三井ロジスティクス株式会社  
内部監査人  
寺西 郁雄氏  
(※構築当時、情報システム部長)



商船三井ロジスティクス株式会社  
情報システム部長  
北園 浩氏

## ソリューション

グループ企業における基幹システム構築の実績を評価し、ITベンダーとしてNSSOLを選択。保守期限に間に合わせるため、NSSOLは中国現地法人によるオフショア開発などの工夫により開発期間を短縮した。

## 成果

メインフレームからの脱却を果たし、ビジネス環境の変化と全社戦略に即した全体最適化を進めている。受注単位の詳細な収支管理や進捗管理を実現し、スピーディーな意思決定が可能になった。

### メインフレームからの脱却目指し、新基幹システムの開発をスタート

商船三井グループの中核企業として、航空・海上の国際輸送を軸に、ドア・ツー・ドアの物流サービスをグローバル展開する商船三井ロジスティクス。同社は2012年に国際航空輸送業務の基幹システム「AURORA」を刷新するための検討を始めた。

旧AURORAは1983年に構築したメインフレーム上のシステムで、様々な機能拡張を繰り返してきたものの、基本構造は構築当初のままだった。同社はメインフレームの保守期限が迫っていたことを契機に、メインフレームから脱却し、AURORAを現在の事業環境に合わせて再構築することを決めた。2016年3月、受注単位での収支管理や進捗管理、顧客情報管理など重要6テーマを強化する方針を立て、プロジェクトをスタートさせた。

### 1000人月超のプロジェクトを完遂、オフショア開発も活用

商船三井ロジスティクスは、AURORAの再構築に当たり、パッケージソフトも含めて様々な選択肢を検討した。その結果、同社に合うパッケージがなかったことからスクラッチ開発を選択、ITパートナーとして新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)を選んだ。グループ企業の商船三井でNSSOLが基幹システムの構築を成功させた実績を評価してのことだ。

新システムのIT基盤にはNSSOLのマネージドクラウドサービス「absonne(アブソンヌ)」を採用している。保守期限が迫っていたため、NSSOLの中国現地法人へのオフショア開発も活用。1000人月を超えるプロジェクトを無事に完遂し、計画通り2018年4月に新システムが稼働した。

### データの詳細化により、業務と意思決定の効率化を実現

新システムでは、受注、収支、進捗管理、顧客情報管理などの重要6テーマを中心に機能を強化し、受注単位での詳細な収支分析や進捗状況のトラッキング機能などを実現した。ビジネス環境の変化と全社戦略に即した全体最適化を進め、意思決定のスピードアップや経営判断の高度化に寄与している。

新システムの基盤にabsonneを採用したことで、メインフレームからの脱却を実現するとともに、システムの拡張性や運用保守性を高めている。また、事業環境の変化や顧客からの要望によるシステム改修をよりスピーディーに実施できるようになった。同社は今後、新しいAURORAの成果を検証しつつ、海外拠点や国際海上輸送などのシステムにも今回の成果をフィードバックしていく考えだ。

## Key to Success

旧AURORAの根本的な課題は、35年前につくり上げた古い構造のシステムやデータが現在のビジネスに合わなくなっていたことだった。

「以前のシステムは、構築当時の経理処理の観点から勘定科目ごとにデータを管理していました。しかし現在のビジネスは、国際貨物輸送だけでなく、輸出入国内での仕立て・仕分け、保管、配送といった関連業務も一括して請け負っており、よりブレイクダウンした受注単位での収支管理や進捗管理が不可欠です。旧AURORAではこのような切り口でデータを見ることができず、手作業のデータ処理に依存していた点が課題でした」と専務取締役管理部門担当の金森義明氏は語る。

内部監査人の寺西郁雄氏もこう指摘する。「サービスに対するお客様からの要望が増え、多様化してきました。当社としても、受注情報を基にニーズを分析し、お客様に提案をして他社と差別化しなければなりません。こうした最近の事業環境にフットワークよく対応するには、機能の追加変更が容易で、かつデータを色々な切り口から分析できるシステムが必要です。そのためにはメインフレームから脱却し、システムを再構築することが必要でした」

このような要件を実現するための開発作業と並行して、商船三井ロジスティクスとNSSOLは、メインフレームの保守期限に合わせ、短期開発にも取り組まなければならなかった。情報システム部長の北園浩氏は「現場から非常に多くの要求が出る中、優先して実現すべき重要テーマを守りつつ、要件を取捨選択することに苦労しました。NSSOLには、複数の要件を整理して1機能にまとめるなど、開発期限に間に

合わせるための様々な提案をしてもらいました」と述べる。

また寺西氏は、「今回のプロジェクトではオフショア開発を活用しましたが、上流工程の段階からオフショアチームのリーダーに参加してもらおうなど、入念な準備をしてもらいました。コミュニケーション不足に基づくトラブルや手戻りもなく、開発作業を進められました」と振り返る。

### 詳細な収支や進捗を確実に把握 海外へのシステム展開も視野に

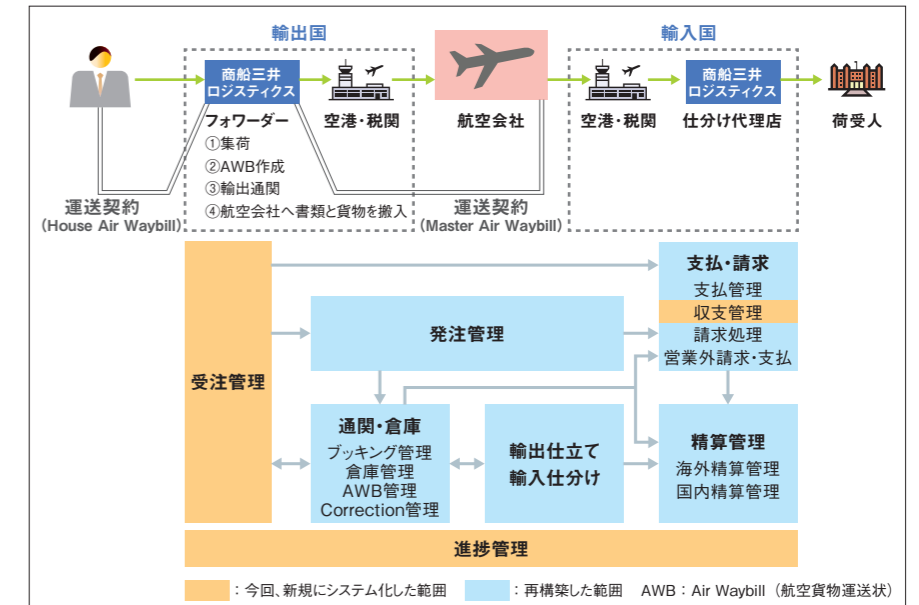
新システムは予定通りにカットオーバーした。新しいAURORAについて北園氏は、「受注単位で詳細に収支を把握できるようになったため、例えば貨物輸送、仕分け、保管、配送などのどの部分で費用がかかっている、どの

部分で利益が出ているのか、詳しく分析できるようになりました」と導入効果について語る。

寺西氏も「システム上で業務の進捗状況や顧客情報を共有できることも大きい。以前、紙の書類やMicrosoft Excelのファイルで情報をやり取りしていたときと比べ、業務効率が向上し、ヒューマンエラーのリスクも大幅に減りました。担当者間で業務の引き継ぎをスムーズに実行できるようになったことから、サービス品質の向上にもつながっています」と評価する。

金森氏は今後について、「当社としては、国際海上輸送業務や海外業務についてもさらに強化したいと考えています。今回の対象は国内の基幹システムでしたが、海外のシステムも強化すべき状況がいずれ訪れるかもしれません。NSSOLには、今後ともさまざまなプロジェクトにおいて協力してほしい」と期待をのぞかせる。

### 業務の流れと新AURORAシステムの概要



■コアテクノロジー  
オフショア開発メンバーの上流工程参画、スクラッチ開発 (AmiNavire (アミナヴィール))

■システム概要  
●サーバー：IAサーバー(absonne)  
●アプリケーション：基幹ロジスティクスシステム